

プログラム / 講演内容のご紹介

15 : 00 ~ 15 : 15

「臨床現場観察・病院見学」のご紹介

吉田 哲也 氏

(神戸市立医療センター中央市民病院 臨床研究推進センター プロジェクトマネージャー)

15 : 15 ~ 15 : 35

開発事例 1 : 輸液コントローラ SEEVOL

山田 恭二 氏

(神戸市立医療センター中央市民病院 臨床工学技術部 臨床工学技士)

医療現場には、日常業務の中に多くのニーズが存在します。今回、薬剤投与時の課題を契機として、臨床工学技士が医工連携に参画し、輸液コントローラ「SEEVOL」の共同研究・開発に携わった経験を紹介し、試作機の流量精度評価やユーザビリティ評価を通して、多職種および企業との連携が医療機器開発に果たす役割についてお伝えするとともに、臨床工学技士が現場の課題を開発へつなげる意義について発表します。

15 : 35 ~ 15 : 55

開発事例 2 : 脳酸素モニタ BROS

岩田 健太郎 氏

(神戸市立医療センター中央市民病院 リハビリテーション技術部 技師長・理学療法士)

急性期リハビリテーションでは、離床や運動療法中の脳の状態を客観的に把握する手段が限られていました。本発表では、神戸市立医療センター中央市民病院、新潟医療福祉大学、株式会社アステムが連携し、臨床現場の課題から着想を得て開発したワイヤレス多機能脳酸素モニター「BROS」の開発事例を紹介し、臨床ニーズの発掘から研究開発、医療機器認証取得、事業化に至るまでのプロセスを通じて、産学医連携によるオープンイノベーションの実践と可能性について発表します。

15 : 55 ~ 16 : 10 ディスカッション

- ・ミニプログラム : 5分企業紹介 (5社)
- ・交流会 ※コーヒー ☕ をご準備しています !

17 : 30 終了



※時間・内容は変更になる場合があります